



みなみつ子

29号

学校教育目標

○かしこく

○やさしく

○たくましく

令和7年12月2日(火)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

インターネットの取扱注意 **※各家庭でスマホやゲーム、タブレットなどの使い方の約束を確認!**

子どもたちと話をしたり、子ども同士の話を聞いたり、遊んでいる様子を見ているとかなりネットの影響を受けているなど感じることが多々あります。今回の学校便りはインターネットについて取り上げます。

インターネットは情報へのアクセスや、コミュニケーション、ビジネスなど私たちの生活のあらゆる面に大きな影響力を持っていて、正しい使い方をすると、とても素晴らしい効果を生み出します。もちろんそれは良さだけでなく、大きな危険性も隣り合わせであることを忘れてはいけません。



多くの人は、自分の信念や仮説を支持する情報ばかりを集め、反対の意見や情報を無視する心理的傾向を持っていて、これは「確証バイアス (confirmation bias)」と呼ばれます。この特性を持っていると、インターネットでの危険性が高くなります。その具体的なものとして、フィルターバブルとエコーチェンバーがあります。

「フィルターバブル (Filter Bubbles)」とは、インターネットを通じて見る情報が、自分が好きなものや興味のあるものに限られてしまう状態のことです。YouTubeやInstagram、Amazon、TikTokなど様々なインターネットサービスでは、ユーザーが何を見て、何に興味があるのかを記録しています。そして、その情報を使って、次にユーザーが求めるコンテンツを予測して、それにあったものを提示します。

また、SNS等で、自分と似た興味関心を持つユーザーが集まる場でコミュニケーションする結果、自分が発信した意見に似た意見が返ってきて、特定の意見や考えが増幅していく状態は「エコーチェンバー (Echo Chamber)」と呼ばれます。何度も同じような意見を聞くことで、それが正しく、間違いないものであると、より強く信じ込んでしまう傾向にあります。「エコー」は反響、「チェンバー」は部屋を意味します。つまり「反響室」。同じ声が何度も跳ね返って聞こえてくるイメージです。

フィルターバブルは、知らず知らずのうちに情報が偏り、異なる意見に触れる機会が失われます。また、エコーチェンバーは、同じ意見が強化され、極端な意見に傾く危険性があります。どちらも危険です。

フィルターバブルでは「知らないうちに偏る」ので、自分で気づきにくいのが問題です。一方、エコーチェンバーでは「仲間と一緒に盛り上がる」ため、極端な意見が強まる危険があります。両方とも「多様な意見に触れる機会を失う」という点で共通しています。

私たちの日常は多くの情報で溢れています。そのような状況で、前述したようなことにならないようするためににはどのようなことが大切でしょうか。

まず意識的に異なる意見を探すことだと思います。周りの大人的考え方を聞いてみたり、普段見ない新聞やニュースサイトをチェックしてみて、異なる意見に触れてみることが大切だと思います。ネットのSNSだけでなく新聞や本も活用するとバランスがとれます。

次に「なぜ私はこの情報を信じるのか?」と考える癖をつけることです。情報を鵜呑みにするのではなく、一度立ち止まり、他の情報はないのか?いろいろな情報源で比較することが大切になります。

子どもたちは普段、ニュースや情報をどのように手段で得ていますか?「ほとんどSNSだけ」という方は、ぜひ一度立ち止まって考えてみましょう。いろいろな情報を基に、自分自身の頭でじっくり考える癖をつけていきたいですね。

大変残念なことですが、世の中には意図的に嘘を流すフェイクニュースが溢れています。AIを使って本物のような加工をしていて、嘘と見破ることも難しくなってきます。だからこそ、一つの情報源だけを信用しないようにし、複数の媒体から情報を集め判断することが必要になってきます。子どもたちだけでなく、私たち大人も騙されないようにしていくことが大切です。

